



# 開知

令和6年12月11日号

佐世保市立世知原小学校  
校長 兼 正晴

谷川俊太郎

図書室に詩集「どきん」があります。  
ページをめくるとタイトル「うんこ」というページに  
折り目がありました。  
この詩を読んだ子供たちは何人いるのだろう。  
この詩を読んだ子供たちは何人笑ったのだろう。  
この詩を子供たちは誰と一緒に読んだのだろう。  
子供たちは「うんこ」という言葉が大好き。  
楽しくなる言葉をたくさんいただきました。  
ありがとうございました。  
ご冥福をお祈りします。



「生きる」子供たち一緒に何度も音読しました。心に沁みる詩です。

## ☆☆☆☆世知原小アレコレ「雪道登校」について☆☆☆☆



世知原では例年雪が積もりますが、その量は確実に減っています。また、防寒衣服もかなり進化し、昔と比べて暖かいのではないのでしょうか。私が小学3年生のときの担任の先生は、「雪をさわって冷えても、しばらくすると体が反応して、自然と暖くなるから、我慢なさい。」と言われました。また、遠くから登校してきた子供たちが、濡れた靴下を窓際に干していました。震えながら教室でじっとこらえていたことを思い出します。100周年記念誌に大正から昭和初期にかけて子供たちの雪の日の登校の様子について、次のようなことが書かれていました。

雪の日はももひきもなく、わらぐつでつぎはぎの着物を着て通いました。高等三年は柚木へ歩いて通いました。上野原から柚木へ歩いて通いましたが、雪の日はわらぐつで通いました。

大雪で子供の登校を助けるため、開作まで出かけたことがありましたが、父兄の方が低学年の子供をこも（むしろ）に乗せて登校させておられました。

昔の子供たちのたくましさを感じます。また、登校すべきという強固な心構えがあったのでしょう。今でも世知原の子は、雪の日も元気に登校しています。これも伝統です。

## P T A 研修会 語らいの広場より

研修会において幼児教育専門家、熊丸みつ子先生の講演会がありました。その中で、あっと思う言葉がありましたので、紹介します。

- ・大人の笑顔は子どもの心の安定剤
- ・子育てには手間ひまかける
- ・子どもは泣いた数だけ幸せになる（泣くたびに、オムツや母乳・・・）
- ・子どもは大人からもらった分（笑顔、あいさつ、優しさ・・・）しか出せない
- ・子どもを認めることが褒めること
- ・立派な完璧な先生はいないし、子供も求めている
- ・いろんな先生がいていい
- ・子育ては親だけでは無理
- ・学力はとても大切、それよりさらに人間力が大切
- ・子育てで悩めることは大人の幸せ
- ・地域の力の第一歩はP T A



大人という言葉は、それぞれの立場に読み替えてみるとよいでしょう。・・・親、教師・・・。また、熊丸先生に興味にある方は沢山の講演会動画が配信されていますので、検索してみてください。

## 読書週間～12月18日（水）

本校では、年間を通して、図書ボラの皆様による読み聞かせ、朝の読書タイムを含め、様々な機会に読書を推奨しています。現在全校で9,303冊一人当たり100冊程度です。学年別でみると5年生が一人当たり146冊、1年生が一人当たり143冊となっています。貸出種類では文学が55%を占めています。次に自然科学が17%です。子供たちにとって読書は、将来必ず役立ちます。

## ☆☆☆☆☆☆修学旅行より☆☆☆☆☆

本校の修学旅行は、学びをテーマに子供たちが自主運営する活動です。見学先ごとに実行委員を中心に見学の仕方や注意事項を確認します。そして、見学後も、全体でお礼の言葉を述べます。今年度も世知原小さい、学びのある修学旅行でした。

弥生時代の吉野ヶ里から、江戸時代の歴史文化博物館、昭和初期の原爆資料館、最後に令和の新幹線乗車体験と歴史を巡る修学旅行でもあります。

平和公園では、平和集会を行い、千羽鶴を捧げました。平和公園で他県高校生が旅行気分を楽しんでいる中、真剣に平和集会を行う本校児童の姿は、誇らしいものがありました。長崎県の小学生として立派な態度だったと思います。また、原爆の恐ろしさや惨さ、実相を他県の子供たちにも理解して欲しいとも思いました。長崎県の子供たちは、必ず原爆資料館に行くべきでしょう。修学旅行を通して、また一つ6年生は成長したようです。

